



撮影協力／タンゲ化学工業株式会社 製造担当の石川利徳さん（21歳・左）と堀田智義さん（18歳）「ぜひ、家族の皆さんで“湯たんぽ”を使ってほしい」と話す。

CONTENTS

この会社、あの技術 「湯たんぽ」の国内トップメーカー
タンゲ化学工業株式会社

ものづくりの職場から 「一体感」で職場環境の改善を目指す
株式会社ディビーエス

E-TREND オフィス環境が社内のコミュニケーションを育む
パワープレイス株式会社

E-LINK

思いと技術を未来へ繋ぐものづくり応援誌 **Vol.7**

その湯たんぽは、 品質管理に1年をかける。

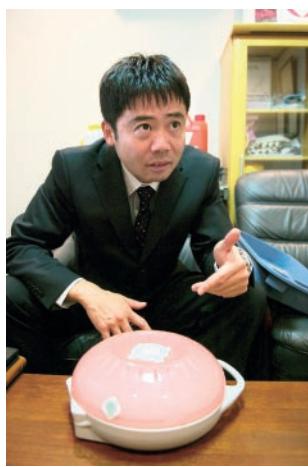
タンゲ化学工業株式会社



新商品の「ドコデモゆたんぽ」は、側面の曲面部分が特徴。腰やヒザなど体のどの部分にもフィットし暖めてくれる。



(左) 同社が考案した「立つ湯たんぽ」は、湯切りが簡単になったと大ヒット商品に(中)湯口との一体成型のほか、キャップ部分も安全に開けやすいように工夫されている(右)丹下明則社長。手前にあるのは、空気の層であたためる「L&B湯たんぽ」



最近、スーパーなどの店頭で湯たんぽが販売されているのをよく目ににする。原油高による燃料費の高騰は、湯たんぽの存在を見直すきっかけになっているようだ。

タンゲ化学工業は、湯たんぽを開発してから20年以上の歴史を持ち、国内トップシェアを誇っている。同社においても、数年前には月15万個程度だった生産量が、現在では約20万個以上にまで伸びているという。この機に乗じて、湯たんぽの大量生産に乗り出したメーカーも出てきた。ただ、代表取締役社長の丹下明則さん(38歳)はいう。「うちちは湯たんぽに命を賭けてきた。チームに乗ろうとは思わないし、これまでのやり方を変えるつもりもない」。

タンゲ化学工業の湯たんぽは「中空成型(ブロー成型)」で作られる。設備・材料・設計図があれば無人でも作れる射出成型と違い、中空成型は温度・湿度・原料の管理が難しく、無人で作ることはできない。

タンゲ化学工業がコストを度外視してまで品質にこだわる理由は「安全性」だ。立つ湯たんぽは、湯口との一体成型が可能であり、熱湯が漏れにくく、強度もある。

さらにその徹底した品質管理では、新しく開発した商品は「その年には出さない」。湯たんぽは毎日使うもの。使う条件は、使う人によってそれぞれ異なる。あらゆる条件を想定し、全商品において耐久テストをおよそ1年をかけて“毎日”繰り返している。

見た目は同じ湯たんぽでも、熱湯を入れて使い続けてみれば、その違いがわかる。そこには、最高の安全・安心を実現する湯たんぽを作りたいと、タンゲ化学工業が創業76年の歳月を積み重ねてきた“もののづくりの魂”が宿っている。

●タンゲ化学工業株式会社
事業内容／家庭用プラスチック製品の開発・製造・販売 従業員数／33名 創業／1932年 所在地／愛知県名古屋市中村区亀島2-13-13

ディビーエスは「DBヘッド定着工法」という独自技術を開発し注目を集めている企業だ。異形棒鋼の先端にダクタイル鋳鉄製リング「DBリング」を定着板として装着。建築物の梁と柱が結合する部分の強度をより高めることに成功した。2007年4月の販売以来、DBリングは32万個を売上げ、コンクリートやモルタルの建造物や構造物に用いられている。

鉄を扱うディビーエスの工場内は、いわゆる「3K」と呼ばれる職場だった。二代目の山本俊輔社長(38歳)が就任して以降「3Kのイメージを払拭しよう」とさまざまな取り組みを進めてきた。職場変革のキーワードは“チーム感”と“アイデア”だ。

「自分たちの職場を、自分たちの手で作り上げていく。みんなが一体となり、アイデアを出し合いながら楽しく仕事ができるようにしていけばと思ったんです」(山本社長)。

各社員の机の横には「目標数字」と「現在の達成率」が書かれたプリントが貼られている。それを見れば、お互いの仕事の進捗状況が把握でき、フォローやアドバイスもスムーズにできる。たった1枚のプリントが社員同士の連携を高めるきっかけになっているという。

また、工場内には「自作」の工夫が随所に凝らされている。工場内の鉄筋を使ってこしらえた手作りの水道。廃品を集めて作った鉄屑カゴ。傘立て、休憩の時に座るベンチ、鳩

よけのネット、会社の門の前に植えられたバラ……みんなでアイデアを出し、一緒に作りあげたものだ。社員が楽しそうに働き、毎日が充実していると実感できれば、そこはもう3K職場ではない。実際、最近では職場見学の依頼が殺到している。

職場には、20代~60代のさまざまな世代の社員が働いている。工場長を任せているマンゴリンさんは、勤務歴17年のブラジル人。マンゴリンさんはいう。「社長ではなく、家族のような存在でいてくれる」。

チームは家族。社員は、同じ屋根の下で働く家族なんだから、みんなで“この家を良くしていく方法”を考えていこう。社員数43名。大家族の職場づくりは、これからも続く。



(上)DBリングを用いた「DBヘッド定着工法」は、多くの建築現場で活用され始めている(下)廃品を利用して作った灰皿。小さなアイデアの積み重ねで、楽しみながら働く職場を目指す



ブラジル人の工場長・マンゴリン・エリゼウさんは勤続17年。山本社長とは「家族のような関係。互いに何でも相談しあって歩んできた」という。

みんなで「この家」を良くする方法を考えよう。

株式会社ディビーエス

オフィスは、ビジネスシーンの舞台装置である。



社内コミュニケーションの問題を取り沙汰されることも多い昨今、オフィス環境の改善からコミュニケーションの活性化を図る動きが注目されている。内田洋行100%出資の「パワープレイス」も、数多くの企業にワークプレイス構築におけるプロジェクトマネジメント、空間デザイン、コンサルティングを手掛けている。

シニアコンサルタントの後藤辰之さんはいふ。「先日もあるものづくりの企業から退職率や離職率をどうしたら改善できるか?という相談を受け、オフィス改善の提案をしました。社内コミュニケーションや業務の活性化は、オフィスの工夫ひとつで大きく変えることが

できます」。

上司と部下の立場が明確だった縦型方向のコミュニケーションが減り、現在は立場がフラットな横型方向のコミュニケーションが主流となっている。さらに組織的に動くというよりも、個人主導のワークスタイルに変わりつつある今、個人と組織の距離を自在に取ることができ、オープンにお互いの思いや情報が共有できるオフィスが求められている。

シニアデザイナーの飯塚嘉宏さんは「オフィスはビジネスシーンの舞台装置」だといふ。「こんな風に社員に働いてほしい」と思う経営者と、「こんな働き方がしたい」と思う社員。お互いの思いを実現するための舞台が「オフィス」だ。机の位置、上司と部下の距離、集う休憩場所、コピー機などの備品の位置に至るまで、細かな舞台の設計を練り上げる。

「最近、社員同士のコミュニケーションが希薄になっているのでは」と感じたら、オフィス環境に目を向けてみてはどうだろう。

●パワープレイス株式会社

事業内容／メーカーなどのオフィス空間の構築のソリューションビジネス 従業員数／80名 創業／2003年 所在地／東京都中央区新川2丁目4番7号



(上)一級建築士でシニアデザイナーの飯塚嘉宏さん
(下)シニアコンサルタントの後藤辰之さん

E-LINKのWeb版「E-LINK online」でもさまざまな情報を発信しています。本誌とあわせてご覧ください。

【ものづくり企業・新世代の経営戦略】「チームワークで『みえる化』を。アイデアで環境を変える」 株式会社ディビーエス 社長 山本俊輔さん
【表紙インタビュー・20代の肖像】「湯たんぽづくりの楽しさを語る」 タンゲ化学工業株式会社 石川利徳さん

●上記の最新記事のほか、E-LINKのバックナンバーや各種セミナーなどの情報がご覧になります。<http://www.k-ktec.co.jp/elink/>

発行／ケーテック株式会社 所在地／〒431-0451静岡県湖西市白須賀3985-2716 連絡先／電話:053-577-2002(代) E-mail: elink@k-ktec.co.jp

発行日／隔月1日発行(次号は3月1日予定です)